

「九州北部の山岳信仰・霊場遺跡と大宰府」

講師・回答：岡寺 良先生(立命館大学教授)

この度は大宰府アカデミー・令和編 第2期を受講いただき誠にありがとうございます。

皆様からいただきましたご質問につきまして回答いたします。

なお、ご質問につきましては、抜粋して掲載しておりますことをご了承ください。

Q／ 仏教者の山岳修行は、日本独特のもので、インドや中国には行われなかったのでしょうか。また「霊山」という概念も同じように日本的なものでしょうか。

A／ 回答

仏教の山岳修行については、日本にどれだけ直接的な影響を及ぼしているかは不明ですが、佛教発祥のインドにも中国にも、山林修行は仏道修行の重要な要素としてとらえられていました。

霊山という概念も中国にも神仙思想などにみるようにあると思われますが、日本の場合、仏教思想とは別に「山中他界観」という、山中は生きている人の住む世界ではないという思想が古くからあるとされ、山は人ではなく「神」が住む世界とされていることが、霊山という概念を考えるうえで重要だと思います。

Q／ 江戸時代における山岳信仰、霊場巡り、また修験道と福岡藩、肥前藩とはどのような関係があったのでしょうか。例えば藩による統制などはあったのでしょうか。

A／ 回答

江戸時代以前は、山中の境界があまり明瞭ではなく、彦山や背振山など、国境にまたがるような霊山は、山を単位とした宗教勢力がおさえていましたが、江戸時代の幕藩体制になると、藩と藩との境界を非常に厳格に決定するような争論が頻発しますし、修験道集団も、幕府の統制下におかれていきます。その結果、国をまたいだ山中修行(峰入り)が難しくなっていました。背振山では、近世以前は筑前一肥前の国境を渡り歩いていた峰入り修行も、近世には肥前国内で完結する「肥前国峰」というルートに編成されたりしています。